

ハートが たくさんの村づくり

No.79

差別のない明るい南阿蘇村をつくりましょう

人権とはなんですか？

人権とは「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持っている権利」であって、だれにとっても大切なもの、日常の思いやりの心によって守られなければならないものです。今回は同和問題におけるよく聞く意見や考えを紹介します。

◆「そっとしておけば、差別はなくなるのではないか」という意見

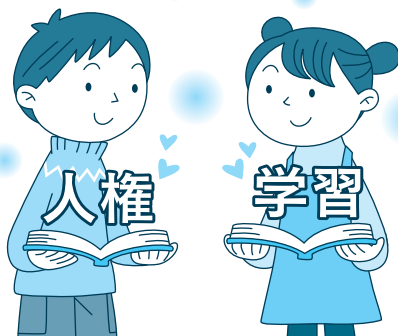
「そっとしておけば、差別はなくなる」という考えでは、同和問題は解決できません。明治4年に「身分解放令」が出されてから約140年、昭和22年基本的人権の保障をうたった日本国憲法が施行されてから65年以上経過した現在でも、「差別をしてはいけない」と頭では理解していても、いまだ差別は根強く現存しています。それは、正しい知識や事実を伝えてこなかったり、多くの人々が「自分には関係ない」「できることなら関わりたいくない」「傍観者でいたい」あるいは「そのうち時間が経てば自然になくなるだろう…」などとして同和問題と向き合うことなく、避けてきたからではないのでしょうか。その結果、偏見や間違った考えが今日まで伝えられ、差別が繰り返されてきたのです。

私たちは、同和問題を正しく認識し学習し、一人ひとりの心の中に差別を許さない心をしっかりと育み、人権を尊重する生き方をすることが大切です。そして、いつも相手のことを思いやる心をもって、考え行動する姿勢が大切なことなのです。

◆「同和問題は他人事、自分には関係ない」という考え

同和問題は、同和地区に生まれたという理由だけで、根拠のない言い伝えや偏見・予断によって差別されるという問題です。皆さんも日常生活を振り返ってみて、自分に責任のない理由で、つらい思いをしたことはありませんか。

現在、同和問題を含め女性、障がい者、元ハンセン病患者等のさまざまな人権問題がありますが、もちろんこれらは差別される側の問題ではなく、差別する側の問題です。人権問題の解決に向けて求められているのは、自分が差別する人間にならないだけでなく、日常生活の中で差別を許さない断固とした行動をとることです。そのため、同和問題をはじめとしたさまざまな人権問題を「自分には関係ない」と避けるのではなく、きちんと向き合っていくことが大切です。同和問題の学習をし、同和問題を正しく理解すれば、同和問題に関わったときに差別を許さない態度をとることができます。同和問題を自分の問題として考えることは、皆さんの人生また地域社会をより豊かに、より暮らしやすくすることにつながっていくはずですよ。



村民の皆さま みんなで差別のない「ハートがたくさん村」をつくりましょう。
役場 人権対策課